

令和5年度第2回地域部活動検討委員会【会議要旨】

開催日時 令和6年1月26日（金） 10:00開会 11:30閉会

開催場所 三次市役所 6階 602会議室

出席委員 東川委員長，藤田副委員長，村上委員，藤原委員，吉浪委員，助木委員，今田委員，長尾委員，片上委員

事務局 三次市教育委員会文化と学びの課，学校教育課，地域振興部
迫田教育長，宮脇教育次長，田村課長，山西課長，藤本課長，山本係長，信田係長，山本指導主事，横山部活動地移行総括コーディネーター

- 次 第
- 1 開会
 - 2 報告・協議
 - 3 その他
 - 4 閉会

1 開会・挨拶

迫田教育長：スポーツ部・文化部ともに地域移行を推進していく。それぞれの立場から様々な角度で実施に向けた意見をいただきたい。

2 報告 事務局説明

- ① 甲奴地域での取組について（甲奴中学校保護者設営会より）（資料1，2）
 - ・ 保護者会で示した「市の地域移行の概略を示した資料」及び「移行後の平日と休日の活動イメージを示した資料」を使って，保護者からの意見等を合わせて報告。
 - ② 三和地域の取組状況について報告
 - ③ 地域クラブ活動指導者登録及び参加申込の素案及び申込要項（素案）（資料3～5）について説明
 - ④ 甲奴地域の運営主体となる「NPO法人 地域活性化プロジェクトチーム GANBO」について会長からの説明
 - ・ 団体の設置趣旨の説明。地域に帰って来たい子を育て，帰って来たい地域を育てる。
 - ・ 委員から会長への質問
- Q) 地域クラブ活動への移行は野球だけか。
- A) まず，野球部で「見える化」を図り，他の部活動に広げていきたい。

Q) 総合型スポーツクラブとはどのように違うのか。

A) GANBOはNPO団体で地域移行の受け皿となる「箱」のイメージを持っている。団体の目的は「三次市まちゆめ基本条例」の理念の達成である。過去，Tシャツの作成やアスパラガスの不要部分の活用等の活動を通して，子どもとの関わりや地域との協働を大切にして地域課題に取り組んできた。今回も，地域で育てるクラブ活動のイメージをもって取り組む。取組を行いながら検討をしていきたい。

○ グループ協議

◇ 事務局説明：スポーツ系と文化系に分かれて、協議をお願いします。令和7年度には、複数の地域で複数の部活動が休日の地域クラブ活動に移行している状態をめざすとす基本方針を具現化するため、まずは、何ができるか。どうやったらできるか。考えられる課題等について想いを出して欲しい。

◇ グループ協議に係る質問

委員：中学校部活動には、原則全員加入なのか。

課長：学校によって異なる。全員加入としている学校もある。地域のクラブチーム等に入っている生徒は、届けにより部活動に加入しなくてもよいとしている学校もある。

委員：希望する部活動がないという理由で、他地域の中学校に入学する事例がある。部活動の状況を地域にしっかり発信して欲しい。そして、希望する部活動の大会に出られるように配慮して欲しい。

課長：中体連も、やりたい種目で大会に出られるように、合同チームでの出場や中体連登録した認定地域クラブの大会参加を認めるなどの配慮をしている。

◇ 委員がスポーツ系、文化系の2グループに分かれて協議

◇ グループ協議のシェアリング

両グループの協議内容を事務局から報告

〈スポーツ系〉

- ・ サッカーの競技者人口が減少している中、学校より市内のクラブチームへの加入が増えている。
- ・ 土日だけ集まってもお互いの技量が異なり指導が難しい。指導方針の一貫性を考えると1週間とおして指導する方が、チームとしては指導しやすい。
- ・ 市内1か所で活動するなど広い地域から集まる場合、送迎が課題となる。三次市営のバス（路線バス、コミュニティバスなど）を活用するなどの検討が必要である。
- ・ 指導者の必要人数などを明確にしながら市民に周知し、指導者を確保することが必要である。
- ・ 今後、学校部活動や地域クラブ活動にどんな選択肢があるのかを子ども周知することが大切である。
- ・ 子どもの活動意欲向上のためには、保護者の協力が大切であり、保護者の意識を変えることも必要である。
- ・ 指導者報酬はできるだけ手厚くなればよい。そうでないと、指導者確保が難しくなるのではないか。
- ・ 競技力を高めることを求めるのか、スポーツに親しむことを重視するのかが生徒によって異なるので、生徒がやりたいことを市内の中で選択できることが大切だと考える。
- ・ 子どもの健康づくりが重要で、部活動が地域委移行しても、学校で指導すべき事項と考えている。
- ・ コミュニティ・スクールの仕組みも活用して、地域の意見をくみ取り、受け皿となること

もできるのではないか。

- ・ 三和スポーツクラブの実例として、保護者の希望によって新種目を立ち上げた際、運営等を保護者と協議したことによって自分事となり、運営を軌道に乗せることができた。
- ・ 今後、移行する際には、移行できる地域・移行できる種目から段階的に行うことでよい。

〈文化系〉

- 保護者・子どものニーズに関わって
 - ・ やりたい部活動を求めて地域以外の中学校に入学する実態がある。
- 指導者確保に関わって
 - ・ 指導者の確保という面から考えると、活動の日時を指導者にあわせることも必要ではないか。
 - ・ 人材バンクの設立と活用が必要
 - ・ 地域で活動しているグループとの連携
 - ・ 地域で行われている教室へ生徒が加入して活動
- 予算面
 - ・ 受益者負担は必要と考える。
 - ・ 発信が大切
 - ・ 6年生を対象にした部活動紹介等の取組が必要ではないか。

◇ シェアリング後の意見

委員：指導者の確保が大切である。

委員：子どもたちの声を聞くためにアンケート実施が必要ではないか。

事務局：アンケートを2年前に実施しているが、現在の取組段階で改めて実施する必要性は感じている。

副校長：コミュニティ・スクールの仕組みをうまく利用し、地域指導者の情報収集や運営のアイデアなどを協議することで、取組みが地域に広がることにつながる。

委員：吹奏楽部の顧問の声も聞きたい。

3 その他

4 閉会